

第 2 回町田市長期計画審議会議事概要

1 **開催日時** 2019年10月11日（金） 午後 1 時00分～午後 3 時15分

2 **開催場所** 町田市庁舎 2階 会議室 2 - 2

3 **出席者**

<委員>

（学識）大久保英敏会長、三輪律江職務代理、芳賀博委員、小林保子委員

（市民団体）深澤勝委員、安達廣美委員、小野敏明委員、清原理委員、上坂孝博委員、
大野太郎委員

欠席：（市民団体）野澤哲也委員、櫻本千恵子委員

<事務局>

小池政策経営部長、水越経営改革室長、押切改革室課長、

樋口企画政策課未来づくり担当課長、本郷企画政策課担当課長、

（企画政策課）山田、山岸、新井、（経営改革室）近藤

4 **傍聴者**

2名

5 **次第**

（1）開会

（2）第 1 回審議会の振り返り

（3）転入者アンケート調査結果報告

（4）各種ワークショップ等の取組状況報告

（5）（仮称）まちだ未来づくりビジョン 2040 の構成とまちづくりの方向性について

（6）今後の行政経営の方向性について

（7）その他

6 **議事内容**

1. **第 1 回審議会の振り返り**

（事務局より、「第 1 回町田市長期計画審議会議事録案」について説明）

○ 委員からの意見は無し

2. **転入者アンケート調査結果報告について**

（事務局より、「町田市転入者アンケート調査報告書<概要版>」について説明）

○ 芳賀委員

配布したアンケートに回答してくれなかった約 65% の市民の属性はどのようになっているのか。その属性と回答者の属性にどのようなズレがあるのかについて把握しておく必要があると考える。

- 大久保会長
転入者アンケートの約35%という回答率は他のアンケートと比較して平均的な数値であると考えて良いのか。
- 事務局
おおよそ平均的またはそれより少し低い数値であると言える。
- 清原委員
交通の利便性について、転入前の市区町村と比べて町田市がよいという意見もあるが、よくないという意見もある。そのような結果になっている理由は何があると考えられるか。推測ではあるが都心へのアクセスと町田市内のバスの乗り入れに関する話が混同していると思われる。
以前の調査で町田市は買い物の利便性が高く、自然豊かなので家族が越してくるという話があった。この転入者アンケートでは「買い物などの日常の利便性」や「公園や自然環境の充実度」がそれに当たると思われるが、これは町田市が打ち出していくべき点になるのではないか。
- 事務局
交通の利便性について、新宿等へのアクセスが良いことを評価されていると認識している。交通の利便性がよくないと感じている市民は町田市内の移動が不便であると感じているのではないかと認識している。また、緑については町田市の特性であると認識している。
- 大久保会長
町田市民の立場から申し上げますと、町田市の周辺は利便性が高く、そこから町田市へ移動する際にバスで1時間近くかかることがある。そのような課題を解決していく必要があると考える。

3. 各種ワークショップ等の取組状況報告

(事務局より、「各種ワークショップ等の取組状況報告経過報告」について説明)

- 三輪職務代理
高校生や大学生の意見を取り入れることは他市には無い町田市ならではの取り組みであると思う。特に高校生の意見については、今後彼らに町田市に留まってもらうためにも丁寧に使っていくべきであると考えます。
- 事務局
高校生とのワークショップについては時間をかけて、意見等、深く聞きながら進めていこうと思っている。このワークショップでまとめた町田のビジョンは審議会でも報告したいと考えている。また、場合によっては審議会の場に来てもらい委員の皆様と意見を交わすことも考える。
- 芳賀委員

資料4のタウンミーティングに関するページで、「住みたいなりたいまちの姿」と「皆さんからの想いや意見一部」の二つに仕分けているが、どのような意図でこのようにしているのか。

○ 事務局

「皆さんからの想いや意見一部」は、タウンミーティング当日に出てきた特徴的な意見をまとめたものになり、その後その意見を一言で表したものが「住みたいなりたいまちの姿」になる。

○ 芳賀委員

「タウンミーティング・ワークショップ実施概要」に「大人世代にとって」という文言があるが、年齢層によって考え方等が変わるため、「大人世代」と一括りにせず、ファシリテーターが年齢層ごとに異なる意見を引き出せるようにする必要があると考える。また、その年齢層ごとの意見がわかるように整理していただきたい。

○ 事務局

タウンミーティングの議論をする際、ファシリテーターは年齢層ごとに意見が異なることも意識しながら意見を整理するようにしている。

○ 芳賀委員

このタウンミーティング・ワークショップの議論の進め方について説明した上で意見を精査・整理した方が理解しやすいと考える。

○ 大久保会長

このタウンミーティング・ワークショップは非常に面白い試みである。学校法人等の協力を得られるとさらにいいものになると考えるがこのような取組については学校法人としても協力できるのか。

○ 大野委員

要請があれば可能である。

4. (仮称) まちだ未来づくりビジョン2040の構成とまちづくりの方向性について

(事務局より、「仮称まちだ未来づくりビジョン2040<構成イメージ>」「仮称まちだ未来づくりビジョン2040及び実行計画の体系案及び現行の基本構想・基本計画について」「2040年を見据えたまちづくりの方向性と課題について」「町田市を取り巻く社会経済状況の変化への対応について」について説明。)

○ 三輪職務代理

資料6-1にあるまちづくりの方向性からその裏側にある部門が見え隠れしていることがわかる。しかし、これから人口減少の時代に入った時に課題に対して部門で解決を図ることはできず、地域の中においては複合的で、エリアごとに全く問題が異なることが起こっていく。各エリアに対する考え方を市の長期計画の内容と対応させていくことが求められていくと考える。

人口減少や超高齢社会は、一般的なことが羅列されているが、局所的には適用されるところと適用されないところが出てくる。これからの都市構造の中で、そのような差が拡大することが予測され、都市計画においてもその点は留意すべきと考える。

○ 小池部長

町田市全体で課題について考えていくだけではエリアごとに違う課題に対応できないことは認識している。その点については検討していきたい。

○ 三輪職務代理

この場で議論していることと、都市計画といった部門別の計画等が横断的に捉えられているように見せないと、この長期計画が達成されないと考える。

○ 事務局

長期計画の方向性が都市計画マスタープランの審議に反映されるようにスケジュールを組んで計画を策定している。

○ 大久保会長

本日は多くの議題について審議するが、それは町田市の積極性の表れと考えることもできる。各課題について議論して、それを全体像として捉えて、横断的な議論をすると考える。

○ 清原委員

子育てや教育に関するサービスは行政が行うもので、交通サービスは民間が行うものである。2040年に向かって何をするのかを検討する際は、行政として何をするのか検討し、分かりやすく示した方が良いと考える。

○ 事務局

基本構想は行政だけではなく民間事業者も含めてどのように進んでいくのか分かるようにしたいと考えている。基本計画では行政が主体になって何ができるのか示していきたい。

○ 小池部長

基本構想というのは町田市全体の構想であるため、町田市内にある民間事業者も従ってもらうように作られる。そして基本計画については行政の計画になるため、民間委託を利用することもあるが行政が実施していく。

○ 清原委員

町田市は首都圏の中でも大都市になるが、経済的に落ち込む様子も見られる局面に入ってきている。このようなことを踏まえて行政として何をするのか検討していく必要がある。

○ 大久保会長

例えばモノレールが延伸される予定だが10年ほどは完成しない。しかし、だからといってモノレールに関する議論をしなくて良いことはなく、計画立案をしていく必要はある。例えばモノレールができなくても、その土地があればモノレールに代わる交通網

ができるといった確実に前に向かっていくような方向性を議論できれば良いと考える。

○ 清原委員

バスが自動運転に転換していくといった未来のことを予測しながら計画を立てていかないと計画立案が難しい時代になっていると考える。

○ 大久保会長

この意見は非常に貴重であると考えます。

まちづくりの方向性について、「子どもが過ごしたい町」という文言の意味がよくわからないがどのような意味か。

○ 三輪職務代理

「子どもが育ちたい町」の意味について考えてみたが、子ども自身が将来もこの町田で暮らすイメージを描けることなのではないか。私は子どもと共に町も育つと考えているため、「子どもと共に育つ町」といった文言の方が良いのではないかと考える。また、この計画に記載されていることが他人事のように感じる。もう少し市としての積極性を表すキーワードを出す方が良いのではないか。

○ 大野委員

資料6-1の「豊かな暮らしができるまち」と「まちがなんとなく家族のようなまち」が似ていると考える。また、少子化対策に特化するのではなく、高齢化対策についても検討して良いのではないか。

○ 小林委員

20年後は「多様性を認め合う」ことが当然のことになっていることを考えると、「多様性を認め合い誰もが力を発揮できる」といった文言の方が良いのではないか。また、「なんとなく」のように抽象的な表現が多いと考える。

○ 芳賀委員

可能であれば、愛着を持って生涯にわたって住み続けられる町といったキーワードが必要になると考える。

○ 安達委員

高校生といった若い人の考え方をくみ取ろうとすることは賛成できる。真剣に取り組む人に関しては我々にも協力してくれると考える。

「安全安心」は大きな課題になると考えており、町田市自治会として都に要望を出している。市の予算だけで解決ができない場合は都の力を借りながら安全なまちづくりを進めていただきたいと考える。一つの方法として、防犯カメラを増やして機械によって確認することも必要になる。

○ 深澤委員

まちづくりの方向性について、他市でも同じことが言えるようになっている。町田市の特徴がわかるような書きぶりにした方が良いと考える。

○ 小野委員

福祉課題について、町田市内の小さなエリアごとに課題は異なり、同一の解決策を講じても上手くいかないことが多い。2040年の町田市の姿をイメージしながら議論を進めていくことが必要である。

○ 大久保会長

「子どもが育ちたい町」という文言を「地域への愛着が持てるような町」といった書き方に変更することも一案であるとする。

○ 大野委員

町田市に愛着を持たせることで転出を抑えようと考えているように思えるが、これまで町田市は流入人口が増加することで発展してきた町であることから、この考えが妥当であるのか疑問に感じる。

○ 三輪職務代理

町田への愛着についてもう一步踏み込むのであれば、人口減少問題に対して、社会増より自然増を増やしていく手もあるとする。例えば、緑や地域コミュニティ等を思い切つて強くするといったものが挙げられる。

○ 安達委員

町田市は都心へのアクセスが良く、緑豊かであるという特徴があるが、まちの中に銀行等がなく不便を感じることもある。そのようなことへの対策も長期計画の中に入れても良いとする。

○ 深澤委員

資料6-1「子どもが育ちたいと思うようなまち」の意味がよく分からない。また、「多様性を認め合えるまち」は「多様性を認め合い支え合うまち」の方が良いのではないかと。

○ 芳賀委員

資料5-1の「2040なりたい未来の姿」の「目指すまちの姿①」は資料6-1の子育てに関するまちの方向性と一致するのか。それとも、より細かい「子どもが育ちたいと思うようなまち」といった文言と一致するのか。

○ 事務局（本郷担当課長）

資料5-1の「2040なりたい未来の姿」の「目指すまちの姿①」と資料6-1の子育てに関するまちの方向性や「子どもが育ちたいと思うようなまち」といった文言は一致していない。現在検討しているまちづくりの方向性が資料5-1の「2040なりたい未来の姿」になっていくと考えている。

○ 芳賀委員

資料6-1の●の箇所について、子どもに関係する項目には3つの●が三つに分かれるのではなく、一つにまとまるという認識で良いかと。

○ 事務局

今は求められるまちづくりの方向性をお話しているが、最終的にはこれが資料5-1

の「なりたい未来の姿」の下にある「目指すまちの姿」に当たり、これにつながっていくイメージになる。

○ 清原委員

方向性とはできないことをできるようにすることや、できることを維持することを指すと考える。町田市は現在豊かな暮らしができるが、今後20年でそれができなくなることと想定し、豊かな暮らしを維持するというニュアンスで方向性を示しているのか。

○ 小池部長

それは前者と後者が混在している。

○ 清原委員

これは町田市のビジョンであるため、町田市の今後の姿を丁寧に伝えていく必要があると考える。

○ 安達委員

資料6-1の「子どもが育ちたいと思うようなまち」「子どもがここで育ってよかったと思うまち」「子どもを産み育てたいと思えるまち」について、どのような意図でこのような文言にしたのか。

○ 事務局

子どもを主体に考えながらまちづくりを進めていくことを意味している。また、子どもだけではなく、子どもを支える大人も住んでいて良かったと思える町にしていくことが大切であると考えている。

○ 小池部長

本日いただいた意見を元に、表現の修正も含め、再度まとめ直していきたい。

○ 大久保会長

まとめると、最初の方向性は「子育て」、2番目が「私たちの暮らし」、3番目が「多様性を認め合えるまち」ということでよろしいか。

5. 今後の行政経営の方向性について

(事務局より、「2040年を見据えた今後の行政経営の方向性」について説明)

○ 芳賀委員

資料6-3の「行政経営」というのは資料5-1のどの項目に関係するのか。

○ 事務局

資料5-2左上の「2040なりたい未来の姿」の下にある「目指す行政経営のあり方経営像」と対応しており、ここでは都市像とかまちづくり基本目標を実現するための基本的なスタンス、基本的な行動の指針、及び具体的な行動について定めている。

○ 芳賀委員

「行政経営基本方針」と「まちづくり基本目標」は横並びの関係にあるという認識で問題ないか。

- 事務局
その認識で問題ない。
- 清原委員
行政経営の方向性に「創造性」や「連携・協同」といったキーワードが挙げられているが、「組織変革」といった言葉は入れられないのか。
- 事務局
まちづくりの方向性の中に組織変革に関することも含まれている。オレンジで囲われた箇所の4行目に「世の中の変化を的確に捉え～」とあるように、我々も変化する必要があることを認識している。
- 清原委員
「行政経営」と書かれている以上、実施する事業や組織、財源をどのようにするのかを分かるように記載した方が良いと考える。
- 小池部長
具体的な職員の定数や財政フレームについては基本計画の中で取り上げる。資料6-3はその基本計画よりも上位の概念に相對する内容になる。
- 事務局
資料5-2の右側に「行政経営基本方針」に「いつでも適切な市民サービスが提供できる財政基盤をつくる」とあるように基本計画レベルでは具体的な行動指針を掲げている。
- 清原委員
他自治体の計画の体系もこの町田市のように行政経営の在り方についても記載をしているのか。
- 事務局
基本構想・基本計画に行政経営に関する記載をしているのは町田市独自のものになります。
- 芳賀委員
資料5-2について、「まちづくり基本目標」だけではなく「経営基本方針」にも成果目標が掲げられている意味がわからない。具体的な政策ではない方針に成果指標を掲げることに違和感がある。
- 大久保会長
町田市は昨年まで10か年計画を立てており、今年度からそれを実行に移すための議論をしてきた。成果指標はその実行計画がきちんと達成されているか確認するもので、その成果指標を示しているのは、町田市が計画を実行しようとする姿勢の現れであると思う。
- 深澤委員
これからの20年で町田市にも多くの外国人が流入すると考えられるが、それに対して

行政がどのように対応するのか記載しても良いと考える。

- 三輪職務代理
本日、まちづくりの方向性を決めたとしても、今後細かい文言に対してフィードバックをする機会はあるのか。
- 小池部長
文言に対するフィードバックをする機会はある。
- 小林委員
資料6-3「課題解決のための重要な視点」にブランディングに関する記述があるが、なりたい未来の姿で示したまちの姿がブランディングされた姿であるという認識で良いか。
- 事務局
まちづくりをする上で、町田ならではのサービスを展開し、共感していただいて町田を選んでもらうようにしたいと考えており、その手段としてブランディングをしていく。
- 大久保会長
町田にとってこのブランディングは課題でもある。例えばインターネットで町田のことを調べると商都として取り上げられることがある。しかし、大学が多くあることを考えると商都だけで良いのか考えなければいけない。
- 大野委員
資料5-2「基本構想」の「基本理念」に「地域の財を生かし豊かさが実感できるようなまちを目指す」とあるが、前回の策定においてもブランドを意識していたのか。
- 大久保会長
今は前よりもブランド化が進んでいて、例えば、トライアル認定制度を7年間継続してきた。そのようなアイデアを委員の皆さんにも出していただきたい。
- 大野委員
アンケート結果の中で文化事業に関する評価が低いことが気になっている。
- 大久保会長
その評価を低いと思わずに町田市の文化事業をどのようにブランディングすれば良いのか考えていただきたい。
- 三輪職務代理
シビックプライドを醸造するためのサポートをしていくといった文言を戦略として資料の中に入れても良いと考える。
- 大久保会長
町田市の場合は既にシビックプライドが芽生えているため、それをどのように育てていくかが大切になると考える。
- 安達委員

基本計画を策定した後は町田市全体に示すのか。

○ 事務局

重点的に実施する事業なんかが生まれてくるというのが、町田市全体に公表される。

○ 安達委員

その場合は横文字を減らすといった工夫が必要であるとする。

○ 事務局

重要な課題であるため、検討の上にあえてカタカナ表記したが、指摘事項も意識して修正していく。

○ 大久保会長

概ねの方向性はよろしいか。まちづくりの方向性や行政経営の方向性については賛同いただいたこととする。本日審議したこれからの方向性については、10月から12月にかけて実施していく無作為抽出型市民ワークショップに引き継がれる。

6. その他

○ 事務局

次回の審議会は12月16日（月）午後5時から会議室2-1で開催する。

○まちづくりの方向性についての主な意見と対応の方向

発言者 (敬称略)	質疑及び委員発言	対応の方向
三輪	・これから人口減少の時代に入った時に課題に対して部門で解決を図ることはできず、複合的に対応していくことが必要である。	まちづくりの方向性については、複数の分野をまたがることを意識して作成していく。
三輪	・「子どもが育ちたいと思うまち」は、「子どもと共に育つまち」といった文言の方が良いのではないか	表現を検討させていただく。
大野	・少子化対策に特化するのではなく、高齢化対策についても検討して良いのではないか。	要素としては高齢化についても盛り込んである。まちづくりの方向性の説明文などで、それがわかるよう表現を検討させていただく。
小林	・20年後は「多様性を認め合う」ことが当然のことになっていることを考えると、「多様性を認め合い誰もが力を発揮できる」といった文言の方が良いのではないか。	表現を検討させていただく。
芳賀	・愛着を持って安心して住み続けられる町といったことが一つのキーワードになると考える。	まちづくりの方向性の説明文などにキーワードとして盛り込んでいく。
安達	・「安全安心」は大きな課題になると考えている。	まちづくりの方向性の説明文などにキーワードとして盛り込んでいく。
深澤	・町田市の特徴がわかるような書きぶりにした方が良いと考える。	表現を検討させていただく。

○行政経営の方向性についての主な意見と対応の方向

発言者 (敬称略)	質疑及び委員発言	対応の方向
三輪	・シビックプライドに関する記述を資料の中に入れても良いと考える。	キーワードとして盛り込んでいく。
安達	・横文字を減らすといった工夫が必要であると考える。	表現を検討させていただく。